

学校経営目標:夢と希望をはぐくむ学校

教育目標: 考える子 思いやりのある子 やりぬく子

本宮市立本宮小学校

学校だより第 23 号

令和 5 年 2 月 6 日

校長 穂山 俊之



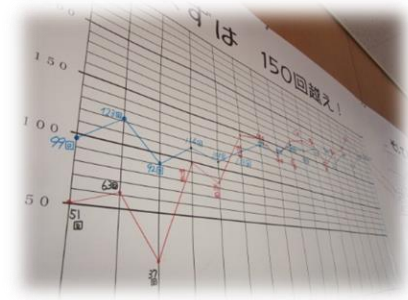
# 本小だより

## 快挙！5年生

### 長なわ記録 県で 2 位と 3 位！

楽しくクラスメイトと協力しながら友情を深め、体力・運動能力の向上が図れることを目指し、県教育委員会が主催して実施している、令和 4 年度「みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト」。ちなみに、大会事務局の HP によりますと、1 月 13 日現在の参加校数は 125 校、長なわとびへの全参加数は、410 チームという状況でした。

そんな中、なんとなんと、本校の 5 年 1 組と 2 組が、長なわとびコンテスト（26 人以上の部）において、**県で 2 位と 3 位の成績をおさめました。**おめでとうございます。



5 年生が、長なわとびに取り組み始めたのは、昨年の 9 月頃だったでしょうか。はじめは、51 回や 99 回という成績からのスタートでした。

それが、取り組み始めてからおよそ 5 ヶ月。今や 300 回に迫ろうかというほどの、素晴らしい成績をおさめるまでになりました。見事な成長ぶりです。

なわとびの技能が高まったことはもちろんですが、長なわとびをひとつのきっかけとして、5 年生の子どもたちが、「仲間と、ひとつのことに本気になって取り組むことのよさ・素晴らしさ」や「挑戦することの楽しさ・大切さ」、「努力をして成し遂げる達成感・喜び」を味わえたことが、何より嬉しいことです。

ブラボー！！

右写真は、2 月 1 日(水)の 2 校時、体育館で 2 年生を前に、長なわとびを披露する 5 年生の様子です。

とても速いテンポで縄が回転し、次々と跳び抜けていく 5 年生と、それを目の当たりにして目を丸くする 2 年生の様子がわかりただけでしょうか。

※ 5 年生の記録は、下記のアドレスまたは、「福島県なわとび」の検索で確認できます。

順位	学校名	開催日時	種目	記録
1	新地小	2023年01月31日 (水)	Shinchiブラボー!	315
2	本宮小	2023年01月31日 (水)	もともやラビッツドラゴンズ2号	277
3	本宮小	2023年01月31日 (水)	もともやラビッツドラゴンズ1号	273



みんなで跳ぼう！なわとびコンテスト HP のアドレス <https://f-kenkou-nawatobi.jp/long/?c=3&g=5>



鬼は～外 福は～内

# 豆まき集会



節分の日である2月3日(金)の昼の時間、豆まき集会を校内テレビ放送で実施しました。

今年は、節分に関するクイズがあったり、『鬼とお百姓さん』という紙芝居があったり、学年代表児童による、自分の心の中にある追い出したい鬼の発表があったり…。

集会委員さんが、みんなを楽しませようと、素敵な企画をたくさんたくさん準備してくれたおかげで、とても充実した集会になりました。集会委員会の皆さん、どうもありがとう。

また、校長からは「鬼の容姿にまつわる話」と「基本的な感染症対策（コロナとインフルエンザ予防）の話」をしました。春には、法律上の分類が、「2類」から「5類」へと見直されたり、マスクの着用が緩和されたりすることですが、そうなるのは、もう少し先のお話。今は、しっかりと対策することを、あらためて子どもたちに指導しました。

ご家庭におかれましても、引き続き、基本的な感染症対策をよろしくをお願いします。



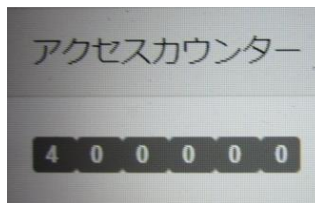
## 本宮小HP 累計40万アクセス超え！

令和5年1月31日(火)、本宮小のHPが、おかげさまで、開設以来のアクセス数 40万超え を達成しました。

本校の教育活動に、関心を持っていただき、心より感謝申し上げます。

これからも学校の様子、子どもたちの活動の様子をタイムリーにお伝えしていきます。

今後とも、ぜひご最良に…。



## 『たい』『よう』が生まれる授業を目指して…

### 安達地区小学校教職員研究発表会 2年連続で 発表校に選出！

1月26日(木)の午後2時00分から、安達地区小学校教職員研究発表会が開催されました。

今年は全部で35点の研究物が出品され、そのうち9つの個人や団体が選出されて発表となり、本宮小の研究実践「算数科における活用する力を身に付けた児童の姿を目指して～自ら考える学びの中で『してみたい』・『やってみよう』が生まれる授業づくり」もその中に含まれました。

代表して、研修主任の佐藤菜月教諭が、本校の取り組みを発表しました。(コロナ渦のため、Zoomでのリモート配信です。)

本校の研究実践の成果が、地区内の学校で、広く共有・活用されることを期待しているところです。

そして、これを励みとして、今後も引き続き、『たい』『よう』が生まれる授業を目指して、子どもたちのため、教職員一丸となって研修に励んでまいります。

